

美高生 不自然な2極化

坂の上通信

令和元年六月十五日
広島市立美鈴が丘高等学校
新聞文芸部(四〇三演習室)

奇数・偶数クラスごとに偏り

死刑という制度について、あなたはどのように思いますか

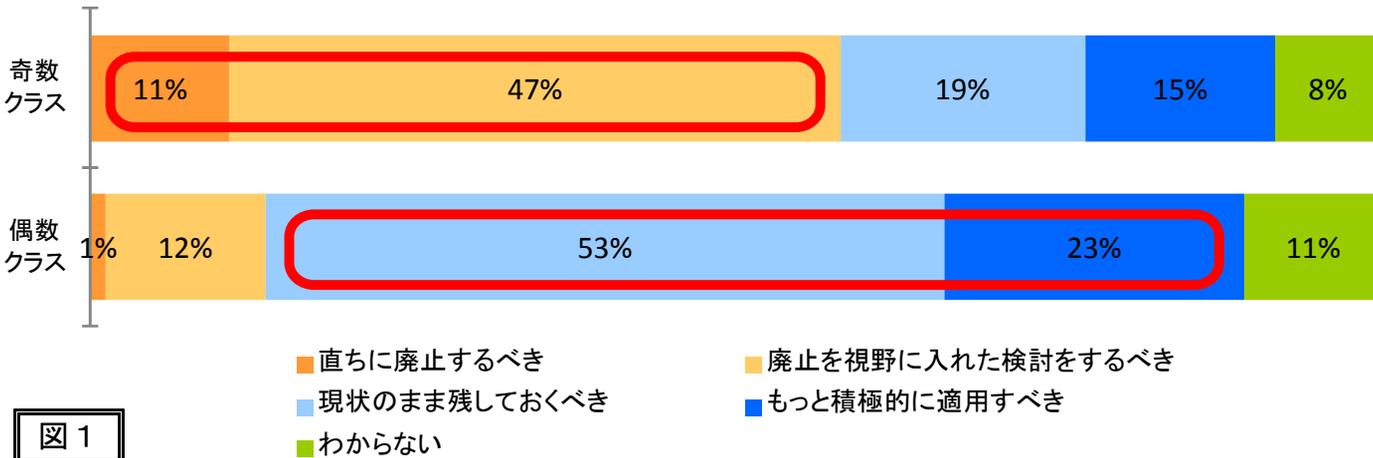


図1

毎年文化祭で全校一斉アンケートを実施している新聞文芸部。例年は美高生の実態や意識をテーマにしているが、今年度は「世論」に注目して実験的な取組を行った。

まずは上記【図1】をみていただきたい。これは「死刑制度についてどう思うか」を尋ね、各学年の奇数クラスと偶数クラスに分けて、結果をグラフ化したものである。

奇数クラス(上のグラフ)では「直ちに廃止すべき」や「廃止を視野に入れた検討をするべき」など、死刑制度に対し反対の立場を示す回答が合計58%となり、過半数を超えた。

一方偶数クラス(下のグラフ)では「現状のまま残しておくべき」や「もっと積極的に適用すべき」など、死刑制度を維持する立場の回答が76%となった。死刑制度に反対する回答はわずか13%しかない。奇数クラスと偶数クラスで大きな差がみられた。

このような結果が生じたのは、もちろん偶然ではない。

仕組まれたアンケート

死刑制度についての回答が二極化されたのは、実施されたアンケートの質問が、奇数クラスと偶数クラスとで異なっていたからだ。下のアンケートを見ていただきたい。

左の奇数クラスでは「死刑廃止が世界の流れである」と知っているか、「裁判で死刑判決が出た後、再審によって無罪になったえん罪事件が複数起っているか」を知っているか、「そのせいで無罪の人が死刑の恐怖におびえながら何十年も獄中につながっていたか、どう思うか」などが問われ、そのうえで「(誤審の可能性もある)死刑をどう思うか」と書かれています。いずれも死刑制度の問題点や課題に言及し、廃止賛成に誘導するような質問だ。

右の偶数クラスでは過去の凶悪犯罪を示しながら「あなたの大切な人が命を奪われた場合」を想像させ、しかし「被害者が1人のとき、多くの場合は死刑にはならない」など、犯人への怒りや嫌悪感を想起させ「死刑もやむなし」という気持ちに誘導させる質問が重ねられている。

つまり、アンケート自体に明白な意図があるというのだ。

死刑廃止への誘導を意図した質問 (奇数クラス)

死刑制度について質問します。現在世界では108カ国が死刑を廃止、29カ国が死刑執行を停止しています。ここ20年間で、50カ国以上が法律上の死刑廃止国となりました。一方、日本ではまだ死刑制度は存在しています。

- 問6 現在世界の3分の2以上の国々で、死刑制度は廃止されています。「国際的には死刑は廃止の方向に向かっている」という声もありますが、あなたは、このことを知っていましたか。
1. 知っていた
 2. よくは知らないが、聞いたことはあった
 3. 知らなかった
- 問7 日本では裁判で死刑判決が出た後、再審(裁判をやり直すこと)によって無罪になった事件が複数あります。あなたは、このようなえん罪(無実の罪)が実際にあるということを知っていましたか。
1. 知っていた
 2. よくは知らないが、聞いたことはあった
 3. 知らなかった
- 問8 日本では、えん罪によって、無罪の人が死刑の恐怖におびえながら何十年も獄中につながっていたということが現実になりました。このことについてどう思いますか。
1. よくないことだと思う
 2. 仕方がないことだと思う
 3. 特に何も感じない
 4. わからない

問9 現実に誤審の可能性のある死刑という制度について、あなたはどのように思いますか。

1. 死刑制度は、直ちに廃止すべきだ
2. 死刑制度は、廃止を視野に入れた検討をするべきだ
3. 死刑制度は、現状のまま残しておくべきだ
4. 死刑制度は、犯罪の内容によってはもっと積極的に適用すべきだ
5. わからない

死刑存続への誘導を意図した質問 (偶数クラス)

死刑制度について質問します。現在の日本では、テロ行為や強盗殺人などの凶悪な犯罪(地下鉄サリン事件・大阪教育大学附属池田小事件など)の犯人に対しては、死刑が宣告されることがあります。

- 問6 仮にあなたの家族や大切な人が凶悪な犯罪によって命を奪われてしまった場合、その犯人に対して、あなたはどのような刑罰を望むと思いますか。
1. どんな場合でも死刑を望むと思う
 2. 場合によっては死刑を望むと思う
 3. どんな場合でも死刑は望まないと思う
 4. わからない
- 問7 死刑の判決を下す基準には様々なものがあり、「殺害された被害者の数」もその一つです。日本においては、被害者が1人の場合は、死刑判決が下されることはまれだと言われています。あなたはこのことを知っていましたか。
1. 知っていた
 2. よくは知らないが、聞いたことはあった
 3. 知らなかった
- 問8 仮に日本で死刑制度を廃止した場合、テロ行為や強盗殺人などの凶悪な犯罪の発生件数は、今よりも増加すると思いますか。
1. 死刑制度を廃止すると、凶悪犯罪は今よりもっと増加すると思う
 2. 死刑制度を廃止しても、凶悪犯罪は今と比べて増加しないと思う
 3. わからない

問9 凶悪な犯罪者を罰する死刑という制度について、あなたはどのように思いますか。

1. 死刑制度は、直ちに廃止すべきだ
2. 死刑制度は、廃止を視野に入れた検討をするべきだ
3. 死刑制度は、現状のまま残しておくべきだ
4. 死刑制度は、犯罪の内容によってはもっと積極的に適用すべきだ
5. わからない

【アンケートについて】各担任の先生にお願いして実施しました。内訳は次の通りです。

・偶数クラス：各学年3クラスずつ、計9クラス。男子140名、女子199名、計339名。

・奇数クラス：各学年3クラスずつ、計9クラス。男子137名、女子190名、計327名。

男女数ともほぼ同数で、合計は666名。全校生徒の約93%から回答をいただきました。

同じ質問なら差はなし

もう一つ、別のグラフを見てみよう。奇数クラスと偶数クラスの両方に全く同じ質問を行った結果が左の【図2】である。

質問の内容は選択的夫婦別姓に関する質問

である。奇数クラスも偶数クラスも「それぞれ選択できるような回答のべき」という回答が60%を超えている。大きな差が生じる場合は、質問や選択肢が異なっているなど、他の要因がある。今回の実験的な取組でそのことが明らかになった。

選択的夫婦別姓について、あなたはどのように思いますか

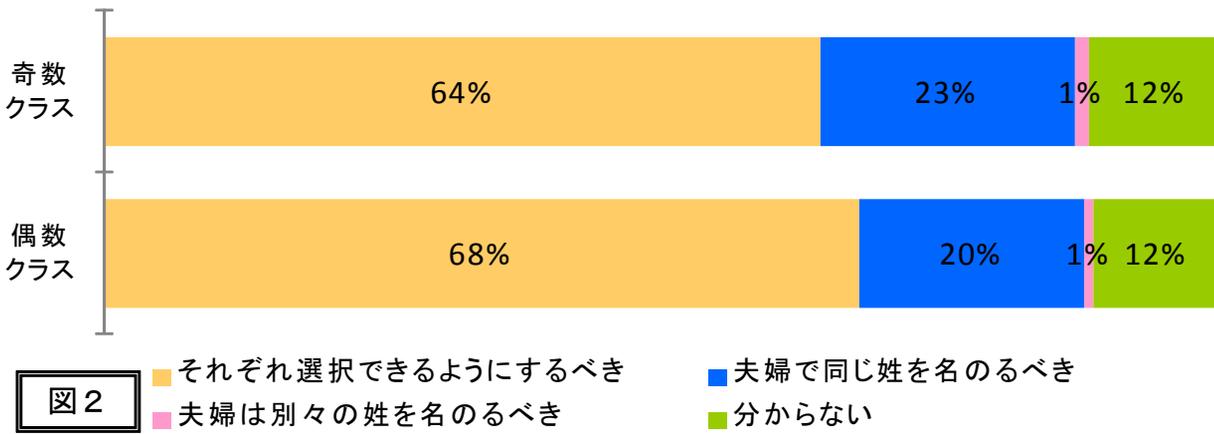


図2

■それぞれ選択できるようにすべき
■夫婦で同じ姓を名のるべき
■夫婦は別々の姓を名のるべき
■分からない

部説

「メディアリテラシー」という言葉がある。テレビ、新聞、インターネットなどのメディアからの情報を見極め、適切に判断する能力のことだ。

本校の生徒のスマートフォン所持率は、97%である（平成30年新聞芸芸部アンケート結果）。望むと望まざるに関わらず、私たちのところには膨大な情報が日常的に流れ込んでくる。情報が踊らされることなく上手に付き合うためには、どうすればよいだろうか。大切なことは二つある。一つ目は情報をそのまま信じ込まないことだ。一つの情報には、発信者の何らかの意図が入っている可能性があるという

情報とどう付き合うか

でも「フェイクニュース」という言葉が話題となった。明らかに信頼性の低い情報がSNSなどを通じて拡散し、投票結果に大きな影響を与えたといわれている。

操作が入っていないか。本当に正しいことは何か。メディアの情報に接するときには、その意識と判断力が必要だ。

二つ目は情報に溺れないことだ。情報収集力は大切だが、情報を見逃すことを恐れ、情報収集そのものが目的になってはいないか。

情報は目的ではない。目的のための手段である。何のために情報を手に入れるのか、そんな真の目的を見失わなければ、蓄積されていく情報に溺れることもなくなるはずだ。

あえて情報を捨てることも必要なのかもしれない。目的を見さため、その目的に必要な情報だけを手に残し蓄積することで、あふれる情報で混乱すること減らさう。

世間の声、ランキンケ。そんな情報は、参考程度にとどめておくべきだ。あくまでも自分の心の声を大切にしながら、情報との上手な付き合い方を考えたい。

情報は「チェック」しよう

今回の新聞芸芸部のアンケート結果について、中国新聞社 読者広報部 部長の吉村知子さんにお話を伺った。

「アンケートをご覧になって、感想などあればお願いします。」

面白い調査だなと思います。質問の仕方によって答えが変わるだろうという想像はつきませんが、実際にこうして見せられると説得力がありますね。中国新聞でも世論調査をされると思いますが、実施・集計される際のルールや、留意していることはありますか。

例えば選挙だったら、調査対象が有権者全体の縮図になるように、性別、年齢、居住地域などに配慮し、無作為に選ぶようにしています。また何人に質問するかというのも重要なポイントです。一般的には、人口一億人の有権者の意見を集約するには、一千人から三千人くらいの意見が必要だと科学的に言われています。今回の皆さんのテ

マのように、特定の回答に偏るような、誘導的な質問ではなく公平な質問になるように気をつけています。

「アンケート結果や世論調査について、見る側が留意すべき点はありませんか。」

理解しておいてほしいことはいくつかあります。まず皆さんが今回実証されたように、アンケートの結果は質問の仕方や答え方で全く違ったものになると知って見てもいいと思います。また先ほど言ったように、世論調査は数千人を対象に行いますが、それでも数%の誤差は生じます。例えば、内閣支持率が2ポイント上がった、下がった等がニュースになりますが、実はこれは誤差の範囲内で、それほど大きなニュースではありません。同じ数字でも、記事の書き方によって違って見えたりします。例えば賛成40%・反対35%の時に「賛成が上回っている」ととらえるか「拮抗している」ととらえるか。そこには書き手の意思がフィルターとしてかかっています。民主主義の国においてこういった世論調査は非常に重要なのですが、正しいものばかりではないことを理解した上で、皆さんには接してもらいたいと思います。

「高校生が身につけるべきメディアリテラシーと

はどういったものでしょうか。

情報やSNSの情報は誰でも発信出来るので、正しいものか間違ったものか分かりにくい部分があります。万全ではありませんが、得た情報が他のサイトでも書かれているかなど、情報の正しさをチェックすることが大切です。新聞やテレビの情報は何重ものチェックがかけられているため、信頼性は高いという意見が多いです。ただ新聞やテレビのニュースも人間が書くものなので、間違いも起こりえることは、常に心に留めておくべきです。

「そのようなメディアリテラシーを身につけるにはどうすればよいでしょうか。」

情報をうのみにしないことですが、それに加え、今回の皆さんの調査のように、バイアスのかけられた結果の恐さなどを知ることがメディアリテラシーを持つ第一歩だと思います。次に、信頼できる情報に日頃から触れ判断力を磨くこと。私は新聞社の人間なので、新聞を読んでもらいたいです。できれば同じニュースを色々な新聞で読み比べてみることで、さらにメディアリテラシーを高めることができると思います。

美・鈴・鈴・鈴

「バイアス」という言葉を知っているだろうか。偏見や先入観という意味で、ビジネスでも用いられる用語である。今回皆さんが答えてくださったアンケートには、露骨なバイアスがかけていた▼具体的には「質問誘導」と呼ばれる。質問文の前に「黒い交際が噂される〇〇候補です」などのネガティブあるいはポジティブな前書きによって、回答もそのイメージに引きずられてしまうバイアスである。またある設問の存在が、それ以降の回答に影響を与えるという誘導もあり、これはキャリアオーバ

効果と呼ばれる▼質問する集団を意図的に選ぶ「サンプリングバイアス」など、そもそも国勢調査などの全員を対象としたアンケートでないかぎり、ある程度のバイアスは生じてしまう。しかしそこに、さらに質問者の悪意があったらどうだろうか。相手の答えをある程度動かすことができるかどうか。

質問者として都合のよい、思い通りの結果を出すこともできる▼最大の問題は、その世論調査をうのみにすること、世の中に新たなバイアスが生み出されてしまうことだ。私たちの中にあるものの見方。悪くいえば偏見は、どこからきて、どこへいくのだろうか？

編集後記

文化祭号である。今年も全校生徒に向けてアンケートを行った。今回の新聞が、情報について考えるきっかけになってくれればと思います。

また多くの人から人気を集めた「ぼくらの美鈴が丘辞典」を2年ぶりに復活させた。この会場で配付しているので、ぜひ手にとってほしい。

